令和7年度第1回帯広市交通安全市民会議 議事要旨

1 日時 令和7年6月30日（月） 11:00～11:50

2 会場 帯広市役所 3階 全員協議会室

3 出席者

(1) 委員 中馬 いつみ、塚本 俊二、小森 明仁、秋山 和仁、高野 英樹、
遠山 美津子、土谷 賢一、河瀬 正直、吉村 典子、内田 朋宏、
高倉 美恵子、中村 博明

(以上12名、敬称略)

※欠席委員 太田 義彦、村岡 克己、佐藤 寛之、高谷 政伸

(以上4名、敬称略)

(2) 関係機関 帯広警察署交通第一課 警部補 北原 圭輔

(3) 事務局 総務部長 河原 康博、危機対策室長 尾澤 琴也、
危機対策課長 野崎 実、危機対策課長補佐 田口 賢祐、
危機対策課主任補 千田 真実、危機対策課主任補 手塚 優人

(以上6名)

4 会議次第

(1) 開会

(2) 新任委員紹介

(3) 議事

令和7年度帯広市交通安全実施計画（案）について

(4) その他

(5) 閉会

5 議事

<令和7年度帯広市交通安全実施計画（案）について>

資料2「令和7年度帯広市交通安全実施計画（案）」の内容について事務局より説明。

加えて、帯広警察署交通第一課より、令和6年中の帯広警察署管内の交通事故発生件数や、交通事故防止に向けた活動などについて説明があった。

【議事に対する質疑応答】 ※以下主な要旨

- 令和6年中の交通事故発生件数が減少している中、交通事故死者数が増加している要因について、警察はどのように考えているか。
- (警察署) 警察としても具体的な要因の特定は難しいが、交通事故発生件数の減少については、自動車の性能向上や道路環境の改善などが影響しているのではと思う。

- 資料2「令和7年度帯広市交通安全実施計画(案)」の中に、「運転免許証の自主返納」との文言がないが、高齢者への交通安全の取組みに含まれているか。
- (事務局) 含まれていないが、危機対策課の取組みとして、「高齢者ドライビング体験会」や「高齢者交通安全研修会」など高齢者を対象とした研修を実施しており、自動車の運転適性を改めて考えていただくような機会を設けているところ。

質疑応答 終了

資料2「令和7年度帯広市交通安全実施計画(案)」について、確認はあったが、内容における加除・修正を求める意見はなく、了承されたもの。

6 その他

<第11次帯広市交通安全計画の計画期間の延長について>

資料3「第11次帯広市交通安全計画の計画期間の延長について」を事務局より説明。

現行の第11次帯広市交通安全計画については、計画期間を令和3年度から令和7年度までの5年としているもの。

次期帯広市交通安全計画については、北海道の次期計画と整合を図りながら策定する必要があることから、令和8年度中に策定することとし、計画期間を令和9年度から令和13年度とする考えであること。

それに伴い、現在の計画を1年間延長し、令和8年度までとする方針で、現在庁内で検討を行っていることを報告し、委員からの意見・質疑はなく了承されたもの。

【委員からの日頃の交通安全に対する質問・意見について】

- 資料2「令和7年度帯広市交通安全実施計画（案）」内に、「交通安全教育及び広報啓発活動の充実」とあるが、帯広市が公式ホームページや公式SNSで発信している交通安全情報は、確認次第シェアさせていただいている。
また、「被害者支援の推進」とあるが、過去に身近な方が交通事故を起こしたことにより心を病んでしまったことがあったため、相談窓口を設置することで、行政として市民の精神的負担を軽減させることができるのは効果があるといえる。
ほかにも、近年外国人就労者が増えていると感じるが、帯広市の転入手続き時は、外国人向けの記入書類があるため親切に感じた。そこで、手続きと同時に外国人に向けた交通安全啓発資料の配布もするとさらに良いのではないかと思う。

- 大空学園義務教育学校周辺の道路において、横断歩道の白線が薄い箇所があり、引き直してほしいがどこに相談したらよいか。
→（警察署）横断歩道や交通規制標識については、公安委員会が管轄となる。横断歩道の白線の引き直しは、公安委員会で年に2回程度実施しているが、予算が限られていることから、全ての箇所の引き直しは難しく、優先順位を付けて実施している。
もし白線の引き直しを希望する場合は、町内会や学校から要望として帯広警察署へあげていただきたい。

- 大空学園義務教育学校前の横断歩道を子どもたちが横断しようとするときに、走ってきた自動車が止まらず通過するところを多く見かける。資料2「令和7年度帯広市交通安全実施計画（案）」の中に、交通安全施設整備事業として、信号機設置等の要望活動の実施や交通安全注意喚起看板の設置等あるが、学校の前に設置いただくなどして、通学路の安全確保をお願いしたい。
→（事務局）市としては、毎年関係機関による通学路の合同点検を実施しており、危険度の高いところは注意喚起看板設置を検討するが、横断歩道・信号機等の設置となると公安委員会の管轄のため、市に要望があった箇所については、市から帯広警察署を通し公安委員会へと要望をあげているところ。
ただし、先に警察から話があったように、予算の兼ね合いで対応が難しいところもあるため、要望をあげることと並行して、「ハンドサイン」の励行等、交通安全啓発活動を関係機関と協力しながらやっているところ。
→（警察署）そのほか、交通安全対策の代替案として、その場所を管轄している交番や、帯広警察署交通第一課指導係あてに、取り締まりの要望もあげていただければ対応を検討させていただきたい。

- 自分の子が小学校から定期的に「ハンドサイン」のチラシなどを持って帰ってくるため、親として目にする機会が多いが、小学生の子がいない市民の方などにはどのように周知しているか。
 - (警察署) 警察としては、企業や大学にも講話をしに行くことがあり、その際に伝えたりしているほか、町内会の回覧文書の中に警察署から発行されている文書も一緒に回覧していただいたりしている。
 - (事務局) 市としては、「広報おびひろ」にて交通安全啓発をしているほか、「交通安全教室」においても、「ハンドサイン」を周知しているところ。

- 市内小・中学校における自転車通学の子に対し、なぜヘルメットを着用義務にしていないのか。自転車通学は認めるが、ヘルメットの未着用によるけがなどは自己責任といった体制でよいのか。

身の回りで労務災害により頭蓋骨を骨折した方がいたが、頭蓋骨を骨折するほどの衝撃を脳に与えてしまう危険があると分かった。

そのため、自転車に乗るうえで頭部を守る手段としては、ヘルメットを着用するしかないと思う。

市内小・中学校において、ヘルメットの着用は義務化することはできないか。

 - (事務局) 学校によっては、自転車通学時のヘルメット着用を義務付けているところもあると伺っている。

今後については、ヘルメット着用が道路交通法上努力義務であることも踏まえたうえで、市教育委員会へ意見があったことについて情報共有させていただく。

質疑応答 終了

7 閉会